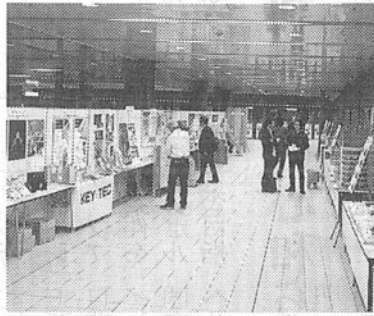


川神奈 都市木造を紹介 連続シンポジウム開催

日本建築家協会関東甲信越支部神奈川地域会（JIA神奈川、飯田善彦代表）は27日、29日の3日間、横浜市のみなとみらい線馬車道駅コンコースで第1回建築フォーラムを



期間中にはパネルや模型なども展示し、協賛企業の技術や材料を紹介した。

開いた。初日のオープニング宣言では、飯田代表が「前向きに建築のことを考えるために企画した。第1回は、連続シンポジウムなどを通じて、これから都市の中に増えていくであろう木造建築を勉強するとともに、市民の方々にも木造建築を伝えていきたい」とあいさつした。

同フォーラムは、NPO法人 team Timberize（チーム・ティンバライズ）、横浜市建築局との共催で、「都市木造が暮らしとまちを変える」をテーマに、都市木造の実例や技術・素材、横浜での可能性を連続シンポジウムや展示を通して紹介

左から花井透横浜市建築局公共建築部長、飯田代表、内海理事、八木理事



し、その展望を探った。

27日に開いたシンポジウム1では「『都市木造』の実例紹介」をテーマに、飯田代表の司会の下、都市木造に挑戦する team Timberize の内海彩理事（内海彩建築設計事務所）、八木敦司理事（スタジオ・クハラ・ヤギ）の2人が手掛けた建築を

紹介するとともに、施主のライフフレバー社の興津秀憲社長、鎌田尚文執行役も交えて、実現に至る過程での課題や解決方法など今後の建築に生かすための実践者の経験を聞いた。

28日のシンポジウム2「都市木造の技術」では、アーキテクトカフェ・田井幹夫建築設計事務所の田井幹夫氏が司会を務め、横浜での都市木造の具体的な実践例を紹介しながら、鈴木アトリエの鈴木信弘氏、中村高淑建築設計事務所の中村高淑氏の建築家2人に加え、施工者、メーカーからエヌ・シー・エヌ、キーテック、シエルター、スクリムテックジャパン、ストローク、竹中工務店、ナイス、銘建工業の8社も加わり、それぞれの立場で都市木造を技術的に解説するとともに、将来に向

けての都市木造の展望や可能性、課題をパネルディスカッションを通じて探った。

最終日となる29日のシンポジウム3「横浜における『都市木造』の可能性」では、柳澤潤副代表を司会に、 team Timberize の腰原幹雄理事長、林野庁の永井壯茂国有林野部業務課治山班課長補佐、鶴澤聡明横浜市建築局公共建築部営繕企画課長、計画・環境建築の杉本洋文氏をパネリストに迎え、都市木造の現在の位置とこれからのイメージを具体的かつさまざまな角度から議論した。JIA神奈川は、2018年2月に開催を予定している「かながわ建築祭」で、このイベントを発展させ、市内の敷地やエリアを想定した都市木造の建築とまち並みの未来像を描く。